

大腸がん検診精度管理検討研究会

代表世話人：斎藤 博

世話人：金岡 繁、島田剛延、鈴木康元、西田 博、西村元一、野崎良一、樋渡信夫、松浦邦彦、松田一夫、松田尚久

世話人会開催：3回（ワーキンググループ会議2回）

1. 大腸CT検査の偶発症に関する全国調査

2016年1月から4月までの期間、大腸CT検査の偶発症に関する全国調査を消化管先進画像診断研究会と共催で実施した。742施設に調査依頼を行い489施設（66%）から回答を得た。検査総数は147,439件であった。死亡例の報告はなかった。腸管穿孔の頻度は0.014%（21/147,439）であった。大腸CT検査における腸管穿孔のリスクは十分に少ないという結論であった。研究報告は、学会発表としてJDDW2017に演題登録を行い、論文としてEuropean Radiologyに投稿中である。

2. 大腸CT検査読影医・読影支援技師認定制度設立に向けたワーキンググループによる検討

2016年9月10日および2017年3月11日の2回にわたり10名のワーキンググループ委員による認定制度設立に向けた議論が交わされた。マニュアルとQ&Aの作成は理事会承認を受け執筆が進められている（原稿締め切り：本年7月末）。腸管外病変の読影の是非については意見を統一できず、読影をした場合の利益・不利益が提示された。以上の内容を包括して附置研究会で具体的内容を公表し議論する。イオン性ヨード造影剤の大腸CT検査への適応拡大が必要と学会に答申した。

[ワーキンググループ構成員]

委員長：永田浩一（国立がん研究センター社会と健康研究センター）

副委員長：野崎良一（大腸肛門病センター高野病院 消化器内科）

委員：入口陽介（東京都がん検診センター 消化器内科）

平山眞章（斗南病院 消化器内科）

松本啓志（川崎医科大学 食道・胃腸内科）

前田恵理子（東京大学医学部附属病院 22世紀医療センターコンピューター画像診断学／予防医学講座）

野津 聡（埼玉県立がんセンター 放射線診断科）

富松英人（岐阜大学 放射線医学）

歌野健一（福島県立医科大学会津医療センター 放射線科）

高林 健（北海道消化器科病院 放射線部 診療放射線技師）

第1回ワーキンググループ会議

日時：平成28年9月10日（土）15:00～17:00

場所：愛知県名古屋市 国際デザインセンター セミナールーム1

議題：・委員長、副委員長の選出

- ・検査、診断医および一次読影技師の読影技術の標準化
- ・学会による講習・トレーニングの実施、読影資格の認定作業
- ・学会による施設認定作業
- ・テキストの推薦

第2回ワーキンググループ会議

日 時：平成29年3月11日（土）13：00～15：00

場 所：虎の門ヒルズ FRONT 店- スタンダード会議室 6M

議 題：・大腸CT検査のマニュアルとQ&A作成

- ・検査，診断医および一次読影技師の読影技術の標準化
- ・腸管外病変の読影の是非について
- ・雛形に示すインフォームドコンセント項目および内容
- ・学会による講習・トレーニングの実施，読影資格の認定作業
- ・イオン性ヨード造影剤の大腸CT検査への適応：公知申請について

3. 大腸がん検診附置研究会（第55回総会）

当番世話人：金岡 繁（浜松医療センター）、西田 博（パナソニック健康保険組合健康管理センター）

「大腸がん検診プロセス指標目標値の設定方法について -適切な要精検率をめざして-」をテーマに議論がなされた。

4. 大腸がん検診附置研究会（第56回総会）

次回の当番世話人およびテーマを決めた。

当番世話人：永田浩一（国立がん研究センター社会と健康研究センター検診開発研究部）

野崎良一（大腸肛門病センター高野病院 消化器内科）

テーマ：大腸CT検査の標準化に必要な認定医師や認定技師の要件について